

メガイアワビ資源の再生に関する研究

(予算区分 県単 研究期間 平成 23~25 年度)

担当 : 水産技術研究所 伊豆分場 伊藤 円

【研究の背景とねらい】

伊豆半島沿岸では、アワビ類の稚貝の放流が毎年行われてきた結果、放流海域によっては放流アワビの混獲率が 10~90%と放流効果が認められています。しかしながら、放流しているにもかかわらずアワビ類の漁獲量は減少傾向にあります。

放流を継続しても漁獲量が減少していることから、アワビ類の天然資源の再生産に何らかの問題があると予想されます。親貝密度が減少したことによる受精卵の減少、着底場所の環境の悪化による稚貝の生残率の低下、感染症の発症による親貝の生残率の低下などさまざまな要因が考えられます。しかしながら、天然資源の資源変動に関する研究は進んでいません。

そこで、本研究では、アワビ類の天然海域における感染の広がりや生残への影響を把握することで、天然資源の減少要因を明らかにし、アワビ類の資源の安定に役立てます。

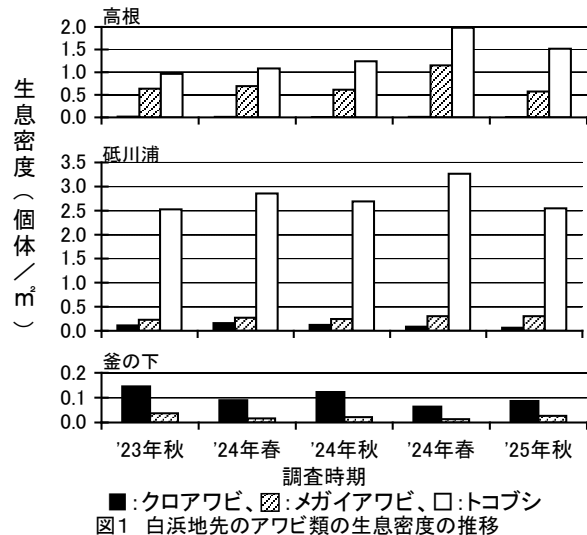
【研究成果】

天然海域での感染の拡大を把握するため、県内各地の漁場から採取したクロアワビ、メガイアワビ、トコブシについて、平成 24 年は計 370 個体、25 年は 365 個体を分析した結果、感染は拡大していませんでした(表 1)。

感染症によるアワビ類の生残への影響を把握するため、下田市白浜地先の 3ヶ所(高根、砥川浦、釜の下)で、生息数と大きさを調査した結果、平成 23 年に陽性のトコブシが採取された高根ではメガイアワビの生息密度は大きな変化がなく、トコブシの生息密度は増加傾向でした。また、砥川浦では 3種、釜の下ではクロアワビの生息密度に大きな変化はみられませんでした(図 1)。

表 1 天然海域における感染状況

年	種	陽性数／
		検査個体数 合計
23	クロアワビ	0/31
	メガイアワビ	0/91
	トコブシ	6/30
24	クロアワビ	0/80
	メガイアワビ	0/78
	トコブシ	0/212
25	クロアワビ	0/70
	メガイアワビ	0/84
	トコブシ	0/211



【研究成果の普及方法】

漁協や流通業者に逐次情報提供を行い、病原体の侵入防止について注意喚起を行い、まん延防止を図っていきます。

(作成 平成 26 年 3 月)